



## 2年ぶりの陶炎祭（ひまつり）参加

新型コロナウイルス感染症対策のもと「第41回笠間の陶炎祭」を開催しました。昨年度も人数制限等対策の中、陶炎祭を開催しましたが、笠間焼工房「陽(yoo)」は感染リスクを考慮し出店・参加を見合わせました。

全国でイベント開催や観光地での集客が難しくなる中、笠間焼工房「陽(yoo)」も大きな影響を受けています。笠間市内や陶器の町益子市内の店舗、伊勢市伊勢神宮前のおかげ横丁「孫の屋三太」等にオカリナをはじめとする陶器の笛を卸していましたが、注文数が減少してしまい、たくさんの在庫を抱えました。笠間市内の放課後児童クラブにオカリナとミニオカリナ、ハト笛を1セットとして寄付をしましたが、日々の作陶で作られるオカリナは一向に減る気配を見せませんでした。

2年ぶりの出店・参加となる陶炎祭は、かき氷等飲食販売をやめて陶器を中心とした店づくりにしました。陶芸家スタッフのアイデアで、1回500円の手作りガチャガチャを置いたところ、子どもだけではなく大人にも好評でした。(P.2) お客さんが来るのだろうか、オカリナや陶器は売れるのだろうかと半信半疑だったスタッフも、ガチャガチャも含めた売れ行きに安堵しました。(表1)

陶炎祭後、創作(個人作品作り)の時間に変化が起きました。コロナ禍以降稼働していなかった電動ろくろが動き出したのです。作っても売る場がないからと、作るのをやめたメンバーがモチベーションを取り戻して作り始めたのです。

ものを作り、売る、展示することで評価を受け、また作る。当たり前にあった「笠間の陶炎祭」が、「ものづくり」としてのサイクルを生み出す重要なイベントであると改めて気づきました。



(編集子)

表1 「第41回笠間の陶炎祭」収支計算表

	科目	金額(円)	適用
収入の部	売上	526,360	陶器(オカリナ、鳩笛、汽車笛、いな吉土鈴、個人作品)
	雑収入	10,000	参加費一部返金
	合計	536,360	
支出の部	賃借料	122,550	陶炎祭参加費、テント等レンタル、駐車場代
	消耗品費	18,475	店舗レイアウト
	雑費	68,172	委託販売作家分売上、打上げ弁当代
	合計	209,197	

収支差額	327,163	
------	---------	--